

第 49 回日本原子力学会バックエンド部会全体会議 議事録

日時:平成 30 年 9 月 5 日(水)12:00～13:00

場所:岡山大学 津島キャンパス A 棟 A37 講義室(G 会場)

議事内容

1. 大和田部会長挨拶

2. 平成 30 年度上期活動報告

2.1 企画報告

2.1.1 企画 A

①大会・年会における企画セッション

・2018 年秋の大会

バックエンド部会の企画セッションは、保健物理・環境科学部会 合同セッションを「クリアランスの現状と課題」として 2 日間開催することを報告した。プログラムは以下の通り。

・1 日目:9 月 5 日(水)13:00～14:30 座長:大越 実(アイソトープ協会)			
(1) わが国におけるクリアランスの現状と検討状況			
1) クリアランスにおける線量規準の考え方	(電中研)	荻野 晴之	
2) わが国におけるクリアランスの現状と課題	(電気事業連合会)	石井 公也	
3) 物品搬出ガイドラインとクリアランス	(JAEA)	橋本 周	
・2 日目:9 月 6 日(木)13:00～14:30 座長:占部 逸正(福山大学)			
(2) 国際動向と再利用の検討状況			
1) IAEA 安全指針 RS-G-1.7 改訂の動向と主な論点	(電中研)	服部 隆利	
2) 福島第一原子力発電所における低線量がれきの限定的な再利用の考え方	(JAEA)	島田 太郎	
3)使用済核燃料から回収した有用元素の再利用とクリアランスの考え方	(京都大学)	高橋 知之	

・2019 年春の年会

2019 年 3 月 20 日(水)～22 日(金)に茨城大学水戸キャンパスで開催される 2019 年春の年会での企画セッションについて、企画のアイデア・希望を運営委員まで連絡するよう依頼した(10 月末まで)。

②プログラム編成

2018 年秋の大会のプログラム編成について、以下の編成委員のご尽力を得たことを報告した。

コード	専門分野	WG リーダー	WG メンバー
405-1	放射性廃棄物処理	曾根 智之(JAEA)	上田 清隆(日立 GE) 小林 大志(京大)
405-2	放射性廃棄物処分と環境	三枝 博光(NUMO)	櫻木 智史(原環センター) 千田 太詩(東北大)
405-3	原子力施設の廃止措置技術	堀内伸剛 (三菱マテリアル)	中山 雅(JAEA) 手塚 将志(JAEA)

### ③研究専門委員会について

研究専門委員会での活動について報告した。

#### ・「シビアアクシデント時の核分裂生成物挙動」研究専門委員会

水化学, 熱流動, 核燃料, 保物理, 社会環境, 計算科学, 安全, 再処理・リサイクル, 環境科学, バックエンドの専門家から構成。水化学部会から参加要請。

核分裂生成物(FP)にかかわる技術集団を構築し, 福島原発廃炉等長期にわたる課題に対応することを目的として設立。

設置期間:2017年6月~2019年3月

バックエンド部会から1名の委員が参加(敬称略)

大杉武史(JAEA)

※企画Aからの活動報告は, 会場の出席者より承認された。質疑事項は特になし。

### 2.1.2 企画B

第34回バックエンド夏期セミナーの開催実績を報告した。

- ・日 時:平成30年8月22日(水)~8月24日(金)
- ・場 所:TKP ガーデンシティ仙台
- ・参加者:90名
- ・テーマ:処分の信頼性, 安全, 技術連携・統合
- ・見学会:ベントナイト工場・鉾山, 参加者40名 (クニミネ工業(株)蔵王工場, 川崎鉾業(株)鉾山)
- ・ポスターセッション:21件

#### ー バックエンド部会ポスター賞

受賞者(敬称略)	表 題
原環センター 藤井 直樹	「フィリピン国パラワン島中南部(Narra 地区)のナチュラルアナログ調査(2)~アルカリ環境下の変質プロセスとベントナイトの長期健全性~」

#### ・その他

ー 今年度も, 学生参加を促す試行を実施, 開催の時期・場所等を考慮した。

学生参加者 H28:0名⇒H29:13名⇒H30:15名に増加

- ・講演資料は部会ホームページ(夏期セミナー)に掲載予定
- ・講演再録, セミナー参加記が部会誌次号に掲載される予定
- ・夏期セミナー参加者へのアンケート結果を報告した。これを基に来年度のセミナーについて(開催場所, 内容など)検討する。

※企画Bからの活動報告は, 会場の出席者より承認された。質疑事項は特になし。

### 2.1.3 企画C

ポジション・ステートメント委員会(Position Statements WG : PSWG)および東アジア放射性廃棄物管理フォーラム(East Asia Forum on Radwaste Management : EAFORM)について報告した。

#### ①ポジション・ステートメント委員会(PSWG)

- ポジション・ステートメント WG (PSWG)は、日本原子力学会が発信するポジション・ステートメント(PS)について、その必要性、妥当性等について検討し、広報情報委員会に提案する役割を担っている。企画 C の担当者が BE 部会の代表として、PSWG 員として活動している。
- クリアランス【解説】:
  - PSWG に上程済(2018.4 月)
  - 現在, PSWG 内にて審議中
- 廃棄物埋設の放射線防護に関する国際的な考え方について【解説】:
  - PSWG に上程(2018.7 月)
  - 分かり易さの観点からのコメントがあり, 現在, BE 部会小委にて改訂作業実施中
- 高レベル放射性廃棄物の地層処分, ガラス固化体の性能 : NUMO セーフティケースが公開された後に, 検討に着手する予定。

## ②東アジア放射性廃棄物管理フォーラム(EAFORM)

- 東アジア放射性廃棄物管理フォーラム(EAFORM)は、2006 年に東アジア地域(台湾, 韓国, 中国(2008 年より参加), 日本)及び米国の関係機関等の下に設置。これまで, 参加機関(米国以外)が持ち回りで開催場所を提供し, 原則 2 年毎に開催。
- 次回(EAFORM2019)は、2019 年 11 月 24 日～27 日の日程で, 韓国の慶州(キョンジュ)で開催予定。

※企画 C からの活動報告は、会場の出席者より承認された。質疑事項は特になし。

## 2.2 広報報告

部会 HP 小委員会活動, H30 年度週末基礎講座の開催概要について報告した。

### ①平成 30 年度部会 HP 小委員会活動について

#### (1)部会ホームページの管理・運用([http:// nuce.aesj.or.jp](http://nuce.aesj.or.jp))

- お知らせ・会議案内 : 夏期セミナー開催案内掲載
- 部会誌「原子力バックエンド研究」記事・論文等の公開
- 夏期セミナー・週末基礎講座: 昨年度プレゼンテーション資料の掲載
- 部会表彰: 受賞者リストの公開 等

#### (2)バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

配信実績 : H30 年度 10 件(4/1～8/31), 配信宛先数 : 440 件(H30/8/20 現在)

お知らせ と お願い

メールの配信開始/停止, アドレスの変更は部会員の皆さまからの申告によって行っています。

配信エラーが続くと自動的に配信停止となります。

アドレスの変更があった方, メール配信を希望される方は, 広報担当までお知らせください。

e-mail : [info@nuce.aesj.or.jp](mailto:info@nuce.aesj.or.jp) (部会ホームページをご覧ください。)

### (3)ホームページ小委員会メンバーの紹介

氏名	所属	来歴	役割
石寺 孝充	原子力機構	広報委員(2017～)	HP 更新, メール配信等の窓口, 運営小委員会との連絡調整
梅原 隆司	原子力安全推進協会	広報委員(2018～)	同上
佐々木 隆之	京都大学		運営全体の俯瞰, 企画・提案
小松 喬	三菱マテリアル	2018～	部会情報メール メーリングリスト管理, メール配信
佐原 聡	原環センター		HP サーバー運用・管理(主担当)
平野 史生	原子力機構		HP サーバー運用・管理

### ②平成 30 年度週末基礎講座 計画説明

#### ・開催目的・趣旨

- ▶ 放射性廃棄物の処理処分などの原子力に関するバックエンド分野の基礎的な知識を身につけていただくことを目的として開催いたします。  
また, 参加者相互の交流の機会を提供するものです。
- ▶ 当分野に興味をお持ちの学生の皆さまや, 新たに業務や研究に携わる方々だけでなく, すでにこの分野でご活躍の方々に, 改めて関連する知識を確認されたい方など, 広くご参加いただけます。
- ▶ 北海道大学工学研究院の原子力人材育成等推進事業と共同で開催します。講義はすべて英語で行います。同時通訳はありませんが, 講義中に日本語による簡単な解説を適宜加える予定です。

・日 程:平成 30 年 11 月 3 日(土) 9:00 頃～4 日(日)15:00 頃

・場 所:北海道大学工学研究院

・参加費:無料(交流会費は別途), 学生の方へは旅費の支給が可能です。

※広報からの活動報告は, 会場の出席者より承認された。質疑事項は特になし。

## 2.3 出版報告

部会誌「原子力バックエンド研究」の発行状況, 投稿規定の改訂(承認事項)について報告した。

### ① 部会誌「原子力バックエンド研究」 Vol.25 No.1 (2018 年 6 月)

→ホームページにて公開中, 論文は J-Stage に公開

No2 を併せて年末に CD を作成・配布の予定

Vol.25 No.1 (2018 年 6 月発行) \* 著者敬称略

< 巻頭言 >

- ・分野の垣根を越えた議論を 稲垣八穂広

< 技術報告 >

- ・ガスが溶存した地下水を含む泥岩中の割れ目を対象とした原位置トレーサー試験条件の設定に関

する検討 武田匡樹, 石井英一, 大野宏和, 川手訓

<資料>

・オンタリオ州民が原子力エネルギーを支持する背景に関する一考察 長崎晋也, Minha Ha, Andrew Walker, Justin Riddoch

<特集;2017 年度バックエンド週末基礎講座>

<会議参加記> 梅原隆司

<講演再録>長谷川優介, 小林大志, 三枝博光

<会議参加記>竹内光男ほか, 中林亮, 三枝博光, 桜木智史

<会告>平成 29 年度バックエンド部会表彰/バックエンド部会 関連行事予定

## ②小委員会体制の見直し

○昨年度と同規模の体制(16 名), 手順書で役割分担・実施内容を明確に

役職名	仕事概要	所属	担当者
編集長	全体の工程管理	京都大学	小林 大志
副編集長	査読付き論文ハンドリング	東京工業大学	鷹尾 康一郎
委員長	全体の取り回し、運営小委・学会事務局との連絡	IHI	澤 周補
副委員長	委員長補佐+工程管理補助	電力中央研究所	横山 信吾
出版幹事	投稿原稿レイアウト調整、事務的仕事の統括	安藤ハザマ	千々松 正和
	査読なし原稿ハンドリング+著者連絡、事務的仕事の統括	戸田建設	関口 高志
	委員長補佐	電力中央研究所	古川 静枝
	フォロー	電力中央研究所	中田 弘太郎
編集幹事	レイアウトを統括	日本原燃	見付 樹大
レイアウト担当	レイアウトの実施、原稿のレイアウト確認	NUMO	西尾 光
		三菱マテリアル	黒沢 満
		清水建設	中島 均
CD 化、J-Stage、会計担当	CD 化、J-Stage、会計を統括	JAEA	石寺 孝充
	論文の CD 化	原環センター	山田 文香
	査読付き論文等の J-stage への登録	JAEA	澤口 拓磨(~8月) 邊見 光(8月~)
	支出、収入の会計処理	ダイヤコンサルタント	清水 洋平

## ③前回全体会議でのコメント回答

前回全体会議にて、バックエンド部会 部会賞表彰細則の改訂(下記の細則抜粋の下線部)に関して、主催者の定義があいまいとのコメントがあった。それについて、本細則の主著者とは、論文投稿時に提出される投稿票で定義される主著者としている、と回答した。

## バックエンド部会 部会賞表彰細則(抜粋)

⋮ 中略

(表彰の種類, 対象, 数, 要件)  
第3条 部会賞に下記賞を設ける。

⋮ 中略

(6)バックエンド部会論文賞:部会誌「原子力バックエンド研究」に掲載された過去3年間の論文を対象とする。毎年1編以内とする。ただし、主著者が同一であり、複数の論文が一連となっている場合は、1編とみなすことができる。

⋮ 中略

### ④部会員の皆様へのお願い

- ・積極的な投稿/寄稿 (情報発信の場としての活用)
- ・査読へのご協力
- ・特集テーマのご提案
- ・論文の投稿または部会誌へのご意見/ご要望等は下記メールへ

[journal@nuce.aesj.or.jp](mailto:journal@nuce.aesj.or.jp)

<http://nuce.aesj.or.jp/journal:info> で部会誌のご案内

※出版からの活動報告は、会場の出席者より承認された。質疑事項は特になし。

## 2.4 庶務報告

海外発表助成制度、研究会支援制度、学生優秀講演賞について報告した。

### ①海外発表助成制度

- ・若手研究者の海外発表に関する渡航滞在費を助成
- ・半期あたり原則1名を対象に13.5万円を限度に助成
- ・詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照

・平成29年度実績

上期分(2月10日締切) 応募1件

東北大学大学院博士課程2年

(Migration2017, スペイン)

下期分(8月10日締切) 応募なし

・平成30年度実績

上期分(2月10日締切) 応募なし

下期分(8月10日締切) 応募なし

### ②研究会支援制度

- ・部会員から研究テーマを公募して研究会を設置
- ・研究会の費用を年間13.5万円までを目安に支給
- ・会期は最長3年とし、適宜成果を取りまとめて発表
- ・詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照

- ・平成 29 年度実績:応募なし
- ・平成 30 年度実績:8 月末時点で応募なし

### ③学生優秀講演賞

・学生会員のモチベーション向上により，新規学生会員の獲得と卒業後の継続加入の確保，バックエンド部会をはじめとした原子力学会の底上げを図る目的で，昨年度の秋の大会より学生優秀講演賞を設置した。

学生会員 → 学生優秀講演賞を 1 名選出

正会員他 → 優秀講演賞を 1 名選出

・各座長の採点結果に基づき，本大会における学生優秀講演賞，優秀講演賞を選出

⇒ 2018 年春の年会の学生優秀講演賞受賞者，および優秀講演賞受賞者と併せて，2019 年春の年会の全体会議において表彰予定

※庶務からの活動報告は，会場の出席者より承認された。質疑事項は特になし。

## 2.5 会計報告

### ①収入の部(2018 年度 8 月分まで)

- ✓ 収入の部:配分金(例年通り)
- ✓ 支出の部:部会HP用レンタルサーバー代，出版小委の活動費
- ✓ 金額・執行時期ともに計画通りで問題なし。

### ②支出の部(2018 年度 8 月分まで)

- ✓ 夏期セミナーの規模が想定より大きく，計画より収入・支出金額が共に大であった。また，収支は赤字となった
  - ✓ 主な要因:夏期セミナー学生参加者の増，見学会の開催費の増，会議室レンタル代の増
- 今年度の実績は，来年度予算編成に反映し，適正化をはかる。

### ③全体収支

- ✓ 夏期セミナーの影響により，合計金額及び執行率は高い。
- ✓ 下半期の支出予定を考慮すると，年度収支はやや赤字となると予想される。
- ✓ 今後も適正な予算管理に努めるが，年度収支で欠損金が生じた場合は，規定通り内部保留金(繰越金)で補填する。

※会計からの報告は，会場の出席者より承認された。質疑事項は特になし。

## 2.6 審議事項

なし

以上